

— 東京理科大学 —

2月9日 B方式 英語

解答・解説

1

(1) 4 (2) ② 3 ④ 1 ⑥ 2 (3) ③ 1 ⑤ 1 (4) 5 (5) 3 4 8

(1) pollen 「花粉」 from plant to plant 「植物から植物へと」 help...to V 「...が V するのを助ける」

(2) ② make 第 5 文型 「O を C にする」

④ amazing 「すばらしい、驚くべき」

⑥ 空欄を含む文の動詞が has been given → 現在完了 + 受動態

(3) ③ inadvertently 「偶然にも」 第 2 段最終文末の by accident と同意。

⑤ exodus 「出ていくこと、離れること」 下線部⑤を含む文前半の the worker bees were leaving their colonies も参考になる。

(4) 脱文が「しかしながら、近年ミツバチを飼う人たちは、不安にさせる傾向に気づいた」〈お〉以降「不安にさせる傾向」の記述がある。

(5) 3 → 第 3 段の内容より。

4 → 第 5 段の内容より。

8 → 第 9 段第 1 文より。

2

(1) 3 (2) 4 (3) 3 (4) 1 (5) 2 (6) 2 (7) 3 (8) 4 (9) 5 6

(1) この場合の **delicious** は「〈料理などが〉とてもおいしい」ではなく、「愉快的、楽しい」といった意味。

(2) **as follows** 「次の通りで[に]」

(3) 下線部②を含む文の前の文・主語となっている **experiments** を受けている。

(4) **miss** 他動詞「Oをとらえそこなう」本文は O が主語となり受動態の文になっている。

(5) 空欄 A を含む文・後半 **but** 以下 **on Fridays.** との対応関係を見出す。

(6) **not only~but (also)...** 「~だけでなく…もまた」

(7) **instead of...** 「…の代わりに、…ではなく」

(8) 先行詞を含む関係代名詞の **what** 下線部④以降が、名詞が欠落した不完全文になっている。

(9) 5→第 5 段前半より。

6→第 5 段後半より。

なお 3 と答えた人も多いかと思われるが、(9)選択肢 3 の英文を訳すと「**【proofreader's errors】**は、誤りと人間の知覚の機能を結びつけた"**researchers**"にちなんで名付けられた誤りである」

「"**researchers**"にちなんで」が不適切。本文にそんなことは書かれていない。本文には **researchers** が **proofreaders errors** と名づけた…とある。**researchers** は差し詰め「名付け親」であり、名前の「由来」ではない。

3

- (1) 1 (2) 1 (3) 4 (4) 3 (5) 4 (6) 1 (7) 3 (8) 4 (9) 4 (10) 1
 (11) 2 (12) 2 (13) 1 (14) 4 (15) 3 (16) 3 (17) 4 (18) 4 (19) 4 (20) 2

- (1) coincide with… 「…と同時に起こる、…と一致する」
 (2) 空欄前後の to と predict 以下で不定詞句を形成している。accurately は副詞で「正確に」
 (3) captive は形容詞「捕虜になった」文全体の動詞 hold(本問では受動態 were held)が第 5 文型で用いられている。「O を C として拘束する」
 (4) accomplishment 名詞「功績、成果」
 (5) nasty 形容詞「ひどい、不快な、いやな」
 (6) hardly[scarcely]～when[before]… 「～するとすぐに～」
 (7) awkward 形容詞「落ち着かない、きまずい」
 (8) この while は名詞「しばらくの間[期間]」
 (9) intentional 形容詞「意図的な」
 (10) a new plan を目的語とした他動詞が入る。devise 「O を考案する」
 (11) grief 名詞「深い悲しみ、悲嘆」
 (12) owing to… 「…のために」
 (13) gaze 自動詞「見つめる、じっと見る」
 (14) intensify 他動詞「O を強める、O を増大する」
 (15) 空欄には従属接続詞が入る。カンマ(,)の後 I find 以降が主節。
 (16) approve この場合は他動詞で「O を承認する」本問の文は、O が主語となって受動態に。
 (17) 仮定法過去完了の文「彼が病気だと知っていたなら、もっと早く彼に電話をしたらろうに」
 (18) along with… 「…と一緒に」
 (19) steal が他動詞「O を盗む」本問の文は O が主語となって受動態に。
 (20) 未来完了進行形の文「来年の今ごろまでに、私は 7 年以上英語を学習していることになるだろう」

4

- (1) 1 (2) 2 (3) 4 (4) 3 (5) 1 (6) 2 (7) 3 (8) 3 (9) 4 (10) 2
 (11) 4 (12) 4 (13) 2 (14) 4 (15) 4 (16) 4 (17) 3 (18) 4 (19) 1 (20) 3

- (1) tiresome 形容詞「〈演説などが〉あきあきする、退屈な、つまらない」awfully は副詞「非常に、ひどく」選択肢 2 の bad は問題ないが、それを修飾する副詞 strongly 「強く」が、意味的におかしい。
- (2) ages 「長い間」※a long time の誇張表現 文全体としては強調構文(分裂文)になっている。
- (3) make it a rule to V 「V するのが常である」it は to V(不定詞句)に対する形式目的語。
- (4) 直訳的には the way he is 「彼の在り方」⇒That's the way he is. 「それが彼のやり方である」
- (5) irritate は他動詞「O をいらいらさせる」受動態 be irritated 「いらいらさせられている⇒いらいらしている」
- (6) upright 副詞「(上方に)まっすぐに、直立して」
- (7) far が副詞で[時間]の意味で用いられ、「(現時点から)遠く、ずっと、はるかに」本問の文では、続く in the past を修飾している。
- (8) nothing but… 「ただ…だけ」(=only)
- (9) too proud to accept help 「助けを受け入れるには、プライドが高すぎる⇒あまりにプライドが高く、助けを受け入れられない」この箇所が「やせ我慢をする人」とほぼ同意と考える。
- (10) Spare the rod and spoil the child.直訳は「むちを惜しむと子供をだめにする」
- (11) so that… 「…するために」
- (12) not necessarily 「必ずしも…ない」
- (13) tap は「(水道・ガスなどの)栓、コック、蛇口」
- (14) call for… 「…を要求する」
- (15) put aside 「〈感情〉を抑制する」選択肢 2 と考える人は、kept が V で calm は C、his anger が O で倒置が起きていると判断か。ただし keep は第 5 文型の場合「O を(意図的に)C にしておく、保つ」だから、「怒りを鎮めたままにする」といった意味になってしまいおかしい。「怒り」を(変化させて)鎮める」のだ。
- (16) have one's own way 「自分の思い通りにする」本問の文「のさばる」に対応。
- (17) hand in 「…を提出する」
- (18) Enough of… 「…はもううんざりだ」
- (19) prejudice 名詞「偏見」that が導く節と同格関係になっている。
- (20) be at a loss for… 「…に困っている、途方にくれている」

5

(1) 3rd 7 6th 3 (2) 3rd 2 6th 7 (3) 3rd 5 6th 1 (4) 3rd 3 6th 2 (5) 3rd 1 5th 5

- (1) to build a facility integrating the natural environment was rejected to build 以下、前の the initial plan を修飾する不定詞の形容詞的用法。
- (2) No sooner did I turn back than my eyes no sooner が文頭に出て、倒置が起きている。
- (3) is not so much a teacher as a parent not so much A as B 「A というよりもむしろ B」
- (4) lucky that I had my bag mended that 以下 have の第 5 文型、C の位置に過去分詞。O と受身の主語述語関係を形成。
- (5) how many people are frustrated because of the current government 他動詞 consider の O が、間接疑問文になっている。

6

(1) gene (2) planet (3) element (4) comet (5) evolution (6) gravity (7) artificial
(8) greenhouse (9) fossil (10) selection

- (1) gene 「遺伝子」
- (2) planet 「惑星」
- (3) element 「元素」
- (4) comet 「彗星、ほうき星」
- (5) evolution 「進化」
- (6) gravity 「重力」
- (7) artificial satellite 「人工衛星」
- (8) greenhouse effect 「温室効果」
- (9) fossil fuel 「化石燃料」
- (10) natural selection 「自然淘汰」

総評

1 長文読解総合問題

比較的読みやすい文章。語彙を問う問題も、知識そのものよりも前後関係から類推させようとしているようです。

2 長文読解総合問題

1と同じくらいの分量。ただし1に比べるとやや難しく感じたかもしれません。

3 短文空欄補充・4 択問題

昨年度と同様、全部で 20 題出されています。語句の知識を問うてはいますが、それが一番大切…というより、品詞の違いをしっかりと見出せるかどうか肝要かと思われま

4 和文→英訳完成・空欄補充 4 択

日本語を英文にする…というのが、昨年度とは異なっていました。こちらも大問3と同様、品詞に対してきちんとした認識があれば、知識そのものがなくても正解は出せる…といった面が色濃かったように感じました。

5 整序英作文

日本語が施されている分、やり易かったのではないのでしょうか!?ただ(2)で no sooner が文頭に来て倒置が生じるとか、(4)で that 以下 have の第 5 文型・語順など、間違いやすいポイントも含まれているので注意が必要です。

6 英語の説明文が示す単語を書く

昨年度は和文英訳として出されて、英文の空欄中に当てはまる単語を書かせる問題でした。今年の方が難しく感じました。

～全体を通して～

昨年度・工学部の問題と概ね同形式の問題でした。ただ細かな箇所では違っているものもあります。難易度としては、昨年度よりやや上がっているのではないかと思われま

東京理科大・他学部との違いは、「問題量が多い」というところにあります。昨日までの他学部が、比較的分量の少ない問題を、きちんと処理するということが大切であったのに対して、特に大問3 4 6といったところで、できない問題に固執しないことが肝要です。